

日本社会学会第88回大会

日本社会学会第88回大会は、2015年9月19日（土）、20日（日）の2日間にわたって、早稲田大学（戸山キャンパス）で開催され、数多くの報告が行われた。

本研究所からは、釜野さおりが「性・ジェンダー（1）」のセッションにおいて、「日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識（1）——セクシュアル・マイノリティ間の比較」（共：中京大学・風間孝，明治学院大学・石田仁，広島修道大学・河口和也，横浜市立大学大学院・吉仲崇），「日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識（2）——同性婚の賛否を規定する要因の探索的分析」（共：明治学院大学・石田仁，広島修道大学・河口和也，横浜市立大学大学院・吉仲崇，中京大学・風間孝），「日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識（3）——身内と他人の場合の比較ならびに社会経済的屬性との関連」（共：横浜市立大学大学院・吉仲崇，中京大学・風間孝，明治学院大学・石田仁，広島修道大学・河口和也）の題目で報告を行った。

また、主な人口関連分野の報告は以下の通りである。

- 「母乳育児指導と出産間隔」……………中村真由美（富山大学）
- 「職場における出会いと結婚意欲の関係——出生動向基本調査と『未婚男女の結婚と仕事に関する意識調査』の分析（1）」……………松田茂樹（中京大学）
- 「未婚男女の出会いの阻害要因——出生動向基本調査と『未婚男女の結婚と仕事に関する意識調査』の分析（2）」……………佐々木尚之（大阪商業大学）
- 「未婚者の結婚・出生意欲を規定する仕事要因及び家庭要因——出生動向基本調査と『少子化と未婚女性の生活環境に関するインターネット調査』の分析（3）」
……………高村静香（東京大学大学院）・大澤朗子（経済社会総合研究所）
- 「『出会い』概念にもとづく両性結婚モデル——未婚化の諸相の理解に向けて」
……………神山英紀（帝京大学）
- 「日本型住宅システムの変容と諸課題——人口減少社会における住宅・家族・コミュニティ（1）」
……………村上あかね（桃山学院大学）
- 「愛知県刈谷市の事例でみる住宅・居住形態・親族関係——人口減少社会における住宅・家族・コミュニティ（2）」……………平井晶子（神戸大学大学院）
- 「京都府綾部市の事例にみる移住希望者と地域住民のギャップ調整——人口減少社会における住宅・家族・コミュニティ（3）」……………姫野宏輔（学習院大学）
- 「『脱法ハウス』問題にみる法的住宅概念と家族モデル——人口減少社会における住宅・家族・コミュニティ（4）」……………久保田裕之（日本大学）
（中村真理子 記）

都市の成長と保存に関する国際政策フォーラム （テヘラン・ハマダン会議2015）

2015年9月28日（月）から10月3日（土）にかけて、イランのテヘラン市およびハマダン市で、都市の成長と保存に関する国際政策フォーラム（テヘラン・ハマダン会議2015）が開催された。都市再開発，社会変化と環境の歴史的推移，ランドスケープ，歴史都市保存，都市と災害，といったサブテーマのセッションが設けられ，参加したイラン，中国，韓国，日本，ロシア，グルジア，トルコ，エジ

プト、スイスの研究者から、それぞれの国の状況、国際比較などについて報告があった。筆者は都市の女性化について、日本とイランの比較、世界の状況について報告した。イランにおいても出生率が1980年代後半より急激に減少し、すでに人口置き換え水準を下回り、2011年では合計出生率が1.80になっている。激動する政治的背景のもと、このような社会変化は今後どのような帰結をもたらすのであろうか。会議の情報は <http://www.ict2015.ir/> に掲示されている。(林 玲子 記)

国連世界統計の日「世界の女性 2015」刊行 記念パネルディスカッション

2015年10月20日（火）、国連が定めた世界統計の日に、「世界の女性2015（The World's Women 2015 : Trends and Statistics）」の刊行を記念したパネルディスカッションがアメリカ・ニューヨークの国連本部で開催された。このイベントは、「世界の女性2015」の編著・刊行を行った国連統計部と、国連日本政府代表部、メキシコ政府代表部の共催にて行われたものである。国連日本政府代表部の南大使の開会あいさつの後、国連統計部グルム氏の「世界の女性2015」の解説、次いで筆者から「世界の人口高齢化時代における女性とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）」についての報告、メキシコ統計局のヴァレラ氏からメキシコにおける女性に対する暴力に関する統計についての報告が行われ、その後フロア討議が行われた。「世界の女性」は、ジェンダー統計とその解説についての報告書で、5年毎に国連統計部により刊行されている。2015年版は人口と家族、健康、教育、仕事、政治的意思決定、女性に対する暴力、環境、貧困に関する章が設けられ、さらに今後のジェンダー統計の整備の課題と展望について述べられている（報告書は国連統計部 HP よりダウンロード可能）。またイベントの情報は、

<http://unstats.un.org/unsd/gender/Events/20%20Oct%202015/default.html> に掲示されている。

(林 玲子 記)

2015年人文地理学会大会

2015年人文地理学会大会は、2015年11月14日（土）・15日（日）に大阪大学豊中キャンパス（豊中市）にて開催された。人口に関する報告と発表者は下記の通りである。

今大会では下記のようにさまざまな地域が対象となっている。ラオスの農村に関する報告では、公的な人口統計や資料等が少ないことから、報告者達が現地調査によって丹念に資料を作成していた。地理学が有す人口問題への近接方法を再認識する大会ともなった。

「中山間地域における集落の小規模・高齢化と無住化—中国地方の実態を中心に—」

.....作野広和（島根大学）

「市区町村別人口移動傾向—若年層の純移動率を中心に—」

.....貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）

「平成の大合併」は縁辺部の人口減少を加速させたか？

—合併前後における旧市町村の人口変化の人口学的分析—

.....小池司朗・山内昌和（国立社会保障・人口問題研究所）

「地域格差と人口移動から見た三大都市圏の動向—地方創生政策と東京一極集中問題—」

.....豊田哲也（徳島大学）